

- http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/profile.html, (参照 2012-09-30).
- (3) “展示・イベント”. 米沢嘉博記念図書館.
http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/archives/index.html, (参照 2012-10-16).
- (4) コミックマーケット公式サイト.
<http://www.comiket.co.jp/>, (参照 2012-09-30).
- (5) コミックマーケット 77 (2009 年 12 月開催) 分より開催。2012 年 12 月開催のコミックマーケット 83 の見本誌の閲覧提供は 2013 年 1 月はじめから開始の予定である。
- (6) 学術的な利用を主とすること、所蔵資料に成人向けのものが含まれることから 18 歳以上に制限している。
- (7) 明治大学 現代マンガ図書館.
<https://sites.google.com/site/naikilib/home>, (参照 2012-09-30).
- (8) 関宮勇. “明治大学マンガ図書館”. 明治大学.
http://www.meiji.ac.jp/koho/hs/html/dtl_0007078.html, (参照 2012-09-30).
- (9) 2004 年に廃止された旧ゆうパックのダンボール箱 (大サイズ) 及びその相当品。外寸で長さ 390mm × 幅 290mm × 高さ 200mm。コミックマーケットの見本誌はこのサイズの箱を使用 (CA1672 参照)。米沢嘉博氏の蔵書もすべてこのサイズの箱に入れて寄贈されており、米沢嘉博記念図書館でもこのサイズの箱を資料の管理などに活用している。
- (10) 岩田次夫 (1953-2004)。コミックマーケット準備会の元スタッフ。1953 年 10 月 15 日生まれ。1986 年よりコミックマーケット準備会にスタッフとして本格参加、コミックマーケットの事務システムの基礎を再構築し、以後準備会の活動に係わり続けた。ジャンルを問わず膨大な数の同人誌を購入し続けたコレクターとしても知られ、同人誌やネットでの批評活動なども行った。著書に『同人誌バカー代』(久保書店、2004 年)。
- (11) 例外として、閲覧室の複本資料は重複しての保存の必要性が低いと判断し、書籍本体に直接資料番号のバーコードを貼って管理している。
- (12) 東京国際マンガ図書館.
<http://www.meiji.ac.jp/manga/index.html>, (参照 2012-09-30).
- (13) COMIC1. <http://www.comic1.jp/>, (参照 2012-09-30).
- (14) COMITIA. <http://www.comitia.co.jp/>, (参照 2012-09-30).
- (15) 有志団体アーケードゲーム博物館計画.
http://island.geocities.jp/ugsf_west/, (参照 2012-09-30).
- (16) 株式会社海洋堂. <http://www.kaiyodo.co.jp/>, (参照 2012-09-30).
- (17) 「まんが王国とっとり」では 2012 年から 2013 年にかけて鳥取県内で多数のマンガ関連イベントを開催している。「鳥取県 × 明治大学連携展示企画 アニメが描く希望と未来展」はそのひとつで、2012 年 8 月 24 日から 9 月 23 日に鳥取県立図書館、10 月 13 日から 11 月 11 日に鳥取県立夢みなとタワーの 2 か所で開催された。米沢嘉博記念図書館で 2012 年 6 月から 9 月にかけて開催した「『孤独のグルメ』谷口ジロー原画展」も鳥取県との連携企画である。これらは明治大学創立者のひとりである岸本辰雄氏が鳥取県の出身だった縁で実施された。
まんが王国とっとり. <http://manga-tottori.jp/>, (参照 2012-09-30).
- (18) “明治大学マンガ図書館北京大学閲覧室の設立に合意しました”. 明治大学. 2010-11-26.
http://www.meiji.ac.jp/koho/hs/html/dtl_0007086.html, (参照 2012-09-30).

[受理: 2012-11-05]

CA1782

広島市まんが図書館の現状と課題について

よしだ ひろし*
吉田 宏*

開館経緯について

1983 年、広島市まんが図書館の前身である広島市立比治山公園青空図書館が開館した。当初は利用も多かったが、山の上という立地条件の悪さに加え、蔵書規模が一般図書 3～4 万冊程度のミニ図書館⁽¹⁾であったこと、同一区内に閲覧室の広さがほぼ倍⁽²⁾の南区図書館ができたこと等が影響し、次第に利用が減少していった。市議会において「まんがを置いてはどうか」という提案が出たことを機に検討を重ねた結果、1997 年 5 月 1 日、公立では全国初となる、まんがだけを扱う、広島市まんが図書館が開館 (蔵書数約 3 万 8 千冊) した⁽³⁾ (図 1 参照)。

予想を上回る利用があったこと等により、1999 年 5 月 1 日には安佐南区に分室としてあさ閲覧室を開設 (蔵書数約 3 万 2 千冊) した⁽⁴⁾。



図1 広島市まんが図書館内

入館者数・貸出冊数について

開館初年度は入館者数約 28 万 6 千人、貸出冊数約 64 万冊と大変な盛況だった⁽⁵⁾。2010 年度までの 14 年間の平均は入館者数約 24 万人、貸出冊数約 52 万冊である。

しかし、2011 年度の入館者数は 2010 年度の約 22% 減の約 19 万人、貸出冊数は約 7% 減の約 42 万 3 千冊だった。筆者が考えている理由としては、東日本大震災による観光客利用者の減少、増え続ける蔵書 (2012 年 9 月現在、約 10 万 7 千冊) のために棚一段に前後二列の配架をせざるを得ないという飽和状態にある閱

*広島市まんが図書館

表1 資料種別貸出冊数（広島市立図書館全体）

区分	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
まんが (A)	1,075,387	1,177,820	1,215,067	1,183,615	1,125,680
一般	2,052,674	2,261,953	2,396,212	2,447,081	2,479,033
児童	1,177,080	1,249,899	1,284,085	1,298,004	1,295,328
雑誌	200,003	205,728	209,411	206,542	207,139
自動車図書館	285,247	291,512	289,271	287,417	281,615
合計 (B)	4,790,391	5,186,912	5,394,046	5,422,659	5,388,795
まんがの他館貸出の割合※	29.3%	31.9%	34%	35%	36.4%

出典：広島市の図書館（要覧）2012 年度（平成 24 年度）

※まんが図書館・まんが図書館あさ閲覧室以外で、貸出を行った割合。

覧室の環境である。そして、まんが雑誌、コミック市場の売り上げ減から⁽⁶⁾、まんがを読む人が減少傾向にあるとも考えられる。また、レンタルコミックやまんが喫茶（ネットカフェ）、大型古書店等の存在により、身近に廉価でまんがを読めるようになったという環境の変化の影響もあるだろう。その原因を見極めることが、館としての課題である。

直近の 5 年間に於いて、広島市の他館でのまんがの貸出の割合は 2011 年度が一番高い（表 1）。貸出・返却は、市立図書館のどこでも可能で、遠方からまんが図書館に来館する必要がないことが、入館者数・貸出冊数の減少理由のひとつと考えられる。

資料収集について

収集については、貴重書と新刊書に分けて考えている。

貴重書は、主に戦後の日本まんがを概観できるようにするため、まんがを多く取り扱う古書店が作成するリスト等を参考に、職員が体系的に選書・収集している⁽⁷⁾。

新刊書は、まんが雑誌等 10 種⁽⁸⁾で初出され、その後単行本として刊行されるものを全点購入している。それ以外はリクエストによる購入と複本の購入、続刊購入等が大半を占めている。職員による選書も行っているが、上記の購入で予算の大部分を執行していることもあり、その数は少ない。ちなみに 2011 年度では選書購入は総購入タイトル数全体の 1 割にも満たない⁽⁹⁾。まんが図書館の目的のひとつでもある資料の体系的な収集のためにも、新刊書の購入は、基準の確立を含めて、検討を要する課題である。

続刊購入については、書架が飽和状態となる原因のひとつになっている。人気のあるまんがは、連載が長期に及び、単行本は何十巻ともなる。中には 100 巻を超えるまんがも増えてきている。収集するにつれ、これらのまんがが書架のかなりの部分を占めているためである。

保存について

利用の少なくなった資料は、通常、閲覧室のスペースに余裕が無いときには、書庫に移すか、除籍するのであるが、当館にはバックヤードとしての書庫もなく、除籍についても、まんがの保存という目的からなかなか容易には出来ないジレンマに陥っている。2010 年には市立図書館である湯来河野閲覧室の空き部屋を書庫（約 2 万 6 千冊収納済）として整え保管を始めたが、既に一杯となっている。今年度は当館の地下の倉庫を書庫（約 1 万 8 千冊収納可能）として使用できるようにした。図書館が積極的に保存に努めなければ、まんがは散逸しやすい資料である。方途を探り、出来る限り保存していきたい。

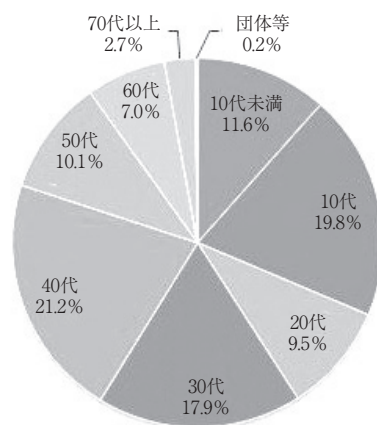


図2 2011年度年齢別貸出者数（まんが図書館）

出典：広島市立図書館内部資料

※総貸出者数は92,599人である。

利用者について

視察や取材に来られる方から利用者層について、よく問われる。子供や若者が中心だと思われることが多い。筆者もかつてはそうであったが、実際は子供から高齢の方まで年齢層は幅広い。2011 年度の貸出者数とその割合を見ると、一番多いのは 40 代、二番目に 10 代、三番目は 30 代である。以下 10 代未満、

50代、20代、60代、70代以上と続く(図2参照)。

また、公立の図書館がまんがを扱うことに対する市民の抵抗感に関する質問を、受けることがある。しかし、実際のところ、これにまつわる苦情はほとんど無い。市立図書館の2011年度の資料種別利用率(貸出冊数÷蔵書冊数)は、まんがは約7.1倍、一般図書は約2.1倍、児童図書は約3.3倍であり、まんがの利用が突出しているのがわかる⁽¹⁰⁾。やはり、まんがはそれだけ多くの利用者に受け入れられ、読まれているものと思われる。

そして、これらの、まんがに関する質問の背景には、広く一般に、まんがに対する共通のイメージがあると思われる。まんががサブカルチャーとよく称されることは、そのイメージの端的な表出ではないだろうか。サブカルチャーは、使われ方によりニュアンスは異なるが、広辞苑によれば「正統的・支配的な文化ではなく、若者など、その社会内で価値基準を異にする一部の集団に担われる文化。下位文化。」とある⁽¹¹⁾。まんがが広く受け入れられていることから考えると、まんがは、サブカルチャーという、いわゆる“一部の集団に担われる下位の文化”ではないのではないと思われる。

利用者について、筆者が意外であったのが、例えば勤めをリタイヤされた方が最初は興味のあるまんがを読むため等で来館されて、やがて新旧の作品・テーマ等もかなり広く、様々なまんがを読み始められることがあることだ。リピーターになる方もある。子供や若い頃にまんがをよく読んだ方が再び読み始められたという場合もあるだろうが、触れる機会があれば、まんがを熱心に読み始めるのは何も若い時だけとは限らないのだと思った。また、年配の方から、本を読むにも小さな活字は辛い、その点、まんがだと文字も少なく、絵だと目の負担が少ないので楽に読める、と伺ったこともある。

おわりに

2009年にまんが図書館では県内22の公立図書館へ、まんがに関するアンケートを行った⁽¹²⁾。再び、その後の状況を知るため、県内の図書館にアンケートを行い、20館から回答をいただいた⁽¹³⁾。まんがの蔵書数は18館が増加(1館無記入)していた。収集にあたっては「購入が主である」が8館、「寄贈が主である」が12館であった。ほとんどの館は、まんがの蔵書が増えることには歓迎的であると受け取れるが、半数以上は、購入による積極的な収集にまでには至っていないようである。

まんがを図書館資料として、相対的に多く収集している図書館はあるだろうが、まんがのみを扱う公立の図書館は稀有である。その意味ではまんが図書館は開

館して15年を迎えた現在もユニークな存在だ。

周知のとおり、2006年に「京都国際マンガミュージアム」が開館した。今年は「北九州市漫画ミュージアム」が開館し、2014年には明治大学が「東京国際マンガ図書館(仮称)」を開く予定である⁽¹⁴⁾。これらは、まんが文化にとって有益なことであり、大変喜ばしい。しかし、同時に当館も独自性を見直しをする時期に差し掛かっていると思われる。

現在、当館では、“ひろしまコーナー”と称して、広島にゆかりのあるまんが家やまんがと、原爆・平和に関するまんがを別置している。例えば、そこを發展させて、原爆・平和に関するまんがの収集に力点をおき、広島市のまんが図書館ならではのコレクションを持ち、資料に精通した職員の育成を図ること等は、最も力を入れなければならないことのひとつだと考える。

まんが図書館の誕生は、青空図書館の利用減少からその端を発したことは既に述べた。今年の7月に、旧広島市民球場跡地の活用策案のひとつとして、「アニメ、漫画の拠点」を作るというものが出てっていると新聞で報じられた⁽¹⁵⁾。仮に、この案が採用された場合、「アニメ、漫画の拠点」が博物館施設であっても、まんが図書館の存廃は検討されるであろう。まんがは、広く市民に受け入れられ、幅広い年齢層の方に利用されている。筆者としては、まんが図書館がなくなったとしても、図書館資料としてのまんがの収集・提供は、保持していくことが大切だと考える。

(1) 閲覧室の広さは約300㎡。

(2) 閲覧室の広さは約580㎡。

(3) 青空図書館の建物をそのまま使用した。まんが図書館の開館経緯については、以下に詳しい。

久留井洋士・広島市まんが図書館の誕生－漫画文化を新しい市民文化に、図書館雑誌、1998、92(9)、p.784-785。

小林郁治・マンガと図書館－まんが図書館の運営から教えられたこと、現代の図書館、2009、47(4)、p.251-257。

(4) まんが図書館あさ閲覧室の開館経緯については、以下に詳しい。

片山久仁子・広島市まんが図書館あさ閲覧室オープン、みんなの図書館、1999、269(9)、p.29-36。

小林・前掲、p.252。

(5) 青空図書館が閉館(1996年12月1日)した前年度に当たる1995年度の入館者数は約8万6千人、貸出冊数は約8万8千冊であり、まんが図書館の盛況ぶりがわかる。

(6) 「2011年のコミック全体(コミックス+コミック誌合計)の推定販売金額は、前年比4.6%減の3,903億円。内訳は、コミックスが同2.7%減の2,253億円、コミック誌が同7.1%減の1,650億円。前年、5年ぶりにプラスに転じたコミックスは再びマイナスとなった。(中略)コミック誌は16年連続のマイナス。この結果、コミックの市場規模は右肩上がりの成長が止まった96年以降、16年間で最低の金額に落ち込んだ。」

安部信行編・出版指標年報、2012年版、全国出版協会出版科学研究所、2012、p.230。

(7) 時代を代表するまんがや、まんが家、まんが雑誌、また、貸本まんがや、付録まんがなどの独特な形態等をとるまんがの収集を行なっている。

(8) マーガレットコミックス、りぼんマスコットコミックス、YOUコミックス、クイーンズコミックス、花とゆめコミックス、てんとう虫コミックス、てんとう虫コロコロコミックス、講談社コミックスなかよし、BE・LOVE KC、ガンガンコミックス。

(9) 2011年度の総購入タイトル(新刊書)約3,000タイトルの内、

- 選書購入は約 70 タイトル。
- (10) 「2011 年度の市のまんの蔵書は 159,340 冊、一般図書は 1,157,296 冊（自動車図書館を除く）、児童図書は 393,397 冊（自動車図書館を除く）である。」
財団法人広島市未来都市創造財団 広島市立中央図書館、広島市の図書館（要覧）2012 年度（平成 24 年度）. 2012, p. 35-36.
- (11) 新村出編. 広辞苑. 第 6 版. 岩波書店. 2008, p. 1141.
- (12) 小林. 前掲. p. 254-255.
- (13) 広島県内公立図書館（広島市を除く）22 館へのまんが所蔵アンケート結果（2012 年 8 月。広島市まんが図書館）。
- (14) “東京国際マンガ図書館”. 明治大学.
<http://www.meiji.ac.jp/manga/>. (参照 2012-09-25).
- (15) 藤村潤平. 旧市民球場 2 分野案に絞る. 中国新聞. 2012-07-12, 朝刊, 25 面.
藤村潤平. 旧広島市民球場「スポーツ複合型」検討継続. 中国新聞. 2012-08-25, 朝刊, 18 面.

Ref:

山口美咲. 公共図書館におけるマンガ資料の選択・収集に関する研究. 明治大学, 2012, 修士論文.

[受理: 2012-11-15]

CA1783 イタリアの“パブリック・ライブラリー”の現状と課題

アントネッラ・アンニョリ*
(翻訳 渡邊由利子)†

はじめに

ヴェネツィアのマルチアーナ図書館、チェゼーナのマラテスティアーナ図書館、ボローニャのアルキジナージオ図書館をはじめ、イタリアには世界的にみても非常に古い図書館が数多く存在する。これらの図書館は、500 年という想像を超える歴史を持つ。それらは今でも、我々が現在認識しているような欧州文明の土台となった書物を確実に保存している。

しかし、ここで取り上げるのはこのような保存図書館 (biblioteca di conservazione) (訳註: 文書の保存を活動の中心とする図書館の呼称。制度的に規定されているものではない。) ではない。イタリアにおいて、「図書館」という同じ名称を持ちながら保存図書館とは全く異なったサービスを提供し、違った目的をもち、ほとんど共通点のない規則に従って活動を進めている。公共読書図書館 (biblioteca di pubblica lettura) である。

この数十年、イタリアは読書のための“パブリック・ライブラリー”という伝統をほとんど持たず、保存図書館に専念してきた。イタリアの人文主義はこれらの素晴らしい図書館を我々に残したが、読書推進につながるような一貫した政策の一端を担うことはなかった。1972 年によりやうく図書館に関する権限が州に移

管され⁽¹⁾、初めて図書館に関する法が制定され、地方公共団体に属した公共読書図書館ネットワークが、南北では均一ではないながらも発展し始めた。

識字教育の遅れ

この選択（あるいは非選択）の結果、貴重な文化遺産は保護されてきたが、図書館の存在は読書推進にはほとんど影響を与えなかった。2010 年に少なくとも 1 冊の本を読んだのは、イタリア人の 2 人に 1 人以下で、2010 年 8 月から 10 月に少なくとも 1 冊の本を購入したのは 3 人に 1 人だけであり、6 冊以上は 3% 以下だった。1 か月に 2 冊以上本を読むのはイタリア人の 2% だけである⁽²⁾。歴史的にイタリアでは識字教育がなかなか普及しなかったために、近代国家が必要とする熟練労働者の育成に大きく遅れが生じているという、悪循環がもたらした結果である。

イタリアにおける“パブリック・ライブラリー”の位置づけと特徴

イタリアでは、“パブリック・ライブラリー”が不可欠なサービスとなったことはなく、もっぱら行政の善意と慧眼に委ねられてきた。今日これらの図書館の中には、経済危機と新しいテクノロジーの到来により、存続が危ぶまれているところがある。市民や役人がより重要だと考えている保育園や給食、公共交通機関などの他のサービスと競合しなければならないからだ。これらのサービスは、図書館の日常的な利用者数より多くの市民に提供されている。図書館の利用率は、南部の 2 - 3% から北部のロンバルディアやエミリーアの 20% までの開きがあり、国全体の平均では 10% にも届いていない（データは、貸出、オンラインサービスの利用者を表している。勉強や雑誌の閲覧のために来館する学生や高齢者はかなりの数だが、これは数値に表れない）⁽³⁾。

周知の通り、イタリアは矛盾に満ちた国である。多くのコムーネ（訳註: 日本の市町村にあたる行政単位）が新しい近代的な図書館に投資せず、既存のサービスを削減している一方、このような危機的時期にありながら、新しい図書館を開館するところもある。2012 年 9 月 21 日、人口約 10 万人のコムーネであるチニゼッロ・バルサモが、5,400 平方メートルの新しい図書館を開館し、また今年の 4 月には、同じくミラノ地域のメダという人口 2 万 3 千人の小さなコムーネも新図書館“メダテカ”を開館した（図 1 参照）。新しく誕生した公共読書図書館の特徴としては、既存建築の再利用と、保存図書館からの分離が挙げられる。

*ボローニャ市図書館協議会理事

†利用者サービス部サービス企画課